

# 平成 26 年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果分析

## 第 2 学年

東久留米市立南中学校

### ( 国 語 科 )

#### ◇結果分析Ⅰ

##### <正答数分布から>

到達目標値 20 問に対して、正答数 19 問の生徒が最も多く、次いで正答数 18 問の生徒が多い。また、正答数 8 問以下の生徒の割合は少なく、正答数が 14 問から 19 問の生徒の層が厚い。このことから、本校では、1～2 問から数問で到達目標値に達成する生徒が多いということが読み取れる。

##### <到達目標値達成の生徒の割合から>

本校における到達目標値達成の生徒の割合は、東京都平均より 0.4 ポイント下回っているが、正答率では東京都平均を、国語 A では 2.2 ポイント、国語 B では 4.7 ポイント上回っていることから、学力の上位層及び下位層が少ないことが読み取れる。

#### ◇結果分析Ⅱ

##### <観点別結果から>

国語に対する関心・意欲・態度の得点率は 60.4% であり、東京都平均を 13.6 ポイント上回った。また、「話す・聞く」は 1 ポイント、「書く」は 3.5 ポイント、「言語」は 0.3 ポイント「読む」は 1 ポイントそれぞれ東京都平均を上回った。

定期的に行う百字作文の活動が、「書く」の得点率につながったと考えられる。

##### <領域別結果から>

読み解く力に関する内容の正答率は、東京都平均より 4.7 ポイント高く、55.4%。領域別にみると、「取り出す力」は 3.3 ポイント、「読み取る力」は 3.6 ポイント上回っていた。「解決する力」の正答率については 70% で東京都平均を 8.5 ポイントそれぞれ東京都平均得点率より高かった。

#### ◇課題

##### <結果分析Ⅰから>

- 国語を得意とする生徒の読み解く力の一層の伸長を図る。
- 国語をやや苦手とする生徒に対し、話す・聞く、書く、読むなど基礎・基本の徹底を図る。

##### <結果分析Ⅱから>

- 「言語」に関わる、漢字力・語彙力を伸ばせるよう、小テストを実施する頻度を増やす。また、辞書を活用する場面を設定し、図書室の利用を図る。
- 「読む」ことについては、内容を的確に捉える力を伸ばす指導の充実を図る。
- 自分の意見を相手に伝えるグループでの発表活動では、話し合いの目的を明確にし、また、要点を聞き取る指導の充実を図る。

## ◇改善に向けた取り組み

### <結果分析Ⅰから>

- 「何を読み取るために」という目的を明確にして文章を読む指導を徹底する。
- 教え合い学習などを通して、国語を得意とする生徒が苦手とする生徒に助言・支援を行うなど得意とする生徒をさらに伸ばす授業を展開する。
- 生徒の考え方や意見を共有する場面を設定し、相互比較を行いながら自分の課題に気づき、思考を深める姿勢を育てる。
- 机間指導の場面をできるだけ多く設定し、きめ細やかな個別の指導を行う。
- 授業・単元毎に復習・振り返りの時間を設定し、繰り返し基礎・基本の定着を図る。
- 日常生活において、獲得した情報や語彙を引き出し、生きた知識とする指導の工夫を行う。

### <結果分析Ⅱから>

- 授業開始時に前時の確認を行い、復習の習慣を身につけさせる。
- 主・述の関係を常に意識させる作文指導を行い、推敲する習慣の定着を図る。
- 発表活動での聞き取りメモを通し、内容を端的にまとめる練習を行う。
- 学習プリントで文章構成メモを作成してから清書させていく。
- 事実部と意見部とを明確に示し、箇条書きで整理できるようにする。
- 1分間の漢字テストを継続して実施し、書き直しを通して定着を図る。その中で語句の知識、語彙力を伸ばしていく。